

りんご生育情報(9月号)

令和7年9月18日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

9月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径90%、ヨコ径93%と平年よりやや小さくなっています。

表1 果実肥大調査結果(mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	63.8	73.4
平年値	71.1	78.9
平年比	90%	93%

※東和町の測定値。

2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が8月26日に発行した発生予報第8号では、褐斑病、ハダニ類の発生量が「やや多い」、果樹カメムシ類の発生量が「多い」と予報されています。また、斑点落葉病の発生量は「平年並み」となっています。

病害虫防除所の9月上旬の現地調査では、県内の複数のほ場でハスモンヨトウの被害葉が確認されており、ほ場によっては卵塊や幼虫の寄生も確認されました。

近年（特に2年前から）、9月半ば以降にハスモンヨトウ幼虫の果樹園及びその周辺での多発が毎年確認されています。ある程度大きくなると樹上から地上に落ちて下草の広葉雑草を食べるようになりますが、果実被害も確認されています。昨年は、一部ほ場では樹によって果実被害が目立ちました。

老齢幼虫になるに従って薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫のうちに防除しましょう。卵塊や、卵から孵化したばかりで集団になっている幼虫を見つけたら取り除くのも重要な防除法です。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第8号(令和7年8月26日発行)

病害虫名	発生量
褐斑病	やや多
斑点落葉病	平年並
果樹カメムシ類	多
ハダニ類	やや多



写真1 ハスモンヨトウの老齢幼虫



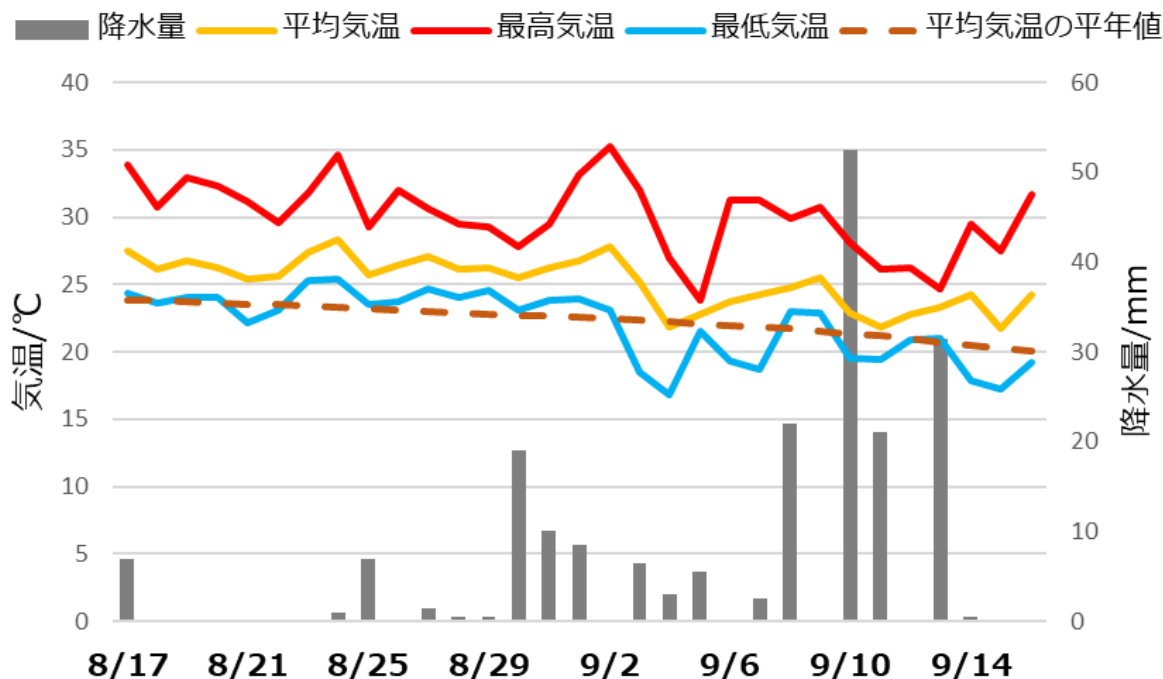
写真2
ハスモンヨトウの卵塊

写真3 孵化した幼虫

3. 気象の推移

8月17日から9月16日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、平年より高い日が続き、上記期間の平均気温の平年差は+2.5℃となり、ほとんどの日で平年値を上回りました。

図1 8月17日から9月16日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）



4. トピックス～りんごの着色メカニズム～

- ・果実の赤色の着色 ⇒ 赤い色素である**アントシアニン**が生成されることで起こる現象
- ・アントシアニンの生成

幼果期・・・どの品種でもアントシアニンが生成される

肥大生長期・・・アントシアニンの生成が減少

▼ 成 熟 期・・・赤色品種：生成が盛んになって真赤に色づく
黄色品種：生成量が少なく若干色づく程度

- ・アントシアニンを良く生成するための3つの基本条件

光：光の中でも着色に強く関与するのは紫外線である

温度：15～20℃が適温でアントシアニンがよく生成される

糖度：アントシアニンの素となるのはブドウ糖である

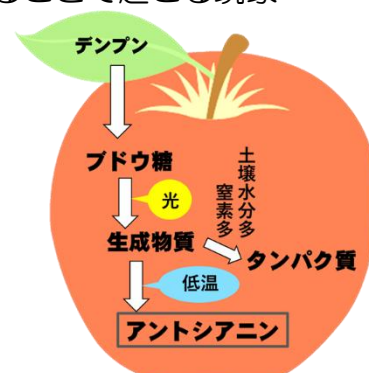


図2 着色のイメージ図

参考：「農業技術体系 果樹編 1 リンゴ」（農山漁村文化協会）

🍏 秋の農作業安全確認運動実施中 🍏 (9月1日～11月30日)

～スローガン「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」～

- ◆シートベルト、ヘルメット着用の徹底！
◆危険個所では原則、迂回を！

